

第6学年道徳指導案

平成17年10月28日(金) 2校時
6年2組(男16名 女16名 計32名)
指導者 亀丸 泰彦

- 1 主題名 生命の輝き (3-(2)生命尊重)
- 2 資料名 お母さんへの手紙(出典 東京書籍)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び第6学年の内容項目3-(2)は「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」となっている。この内容項目は生命の大切さに関するものであり、生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し大切にする児童を育てようとするものである。これは、第1学年及び第2学年の内容項目3-(2)「生きることを喜び、生命を大切にすることを。」と第3学年及び第4学年の内容項目3-(2)「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。」を受けたものである。そして中学校の内容項目3-(2)「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」に発展していくものである。

命はたった一つしかないかけがえのないものである。だからこそ尊いものであり何にもかえ難いものである。しかし、「生きている」ことが当たり前と感じられるため、生命の尊さや、生命を大切にすることはどうしたことなのか、日常生活の中で考えることは少ない。しかし、「生」がある以上必ず「死」は訪れる。それを厳粛に受け止め、与えられた生命に感謝し、最期のときまで「よりよく生きぬこう」とする心は、生きていく上で大切なものである。

この期の児童は、誕生から死に至るまでの過程を理解することはできるものの、それらを通して生命の大切さを自覚し、生きることの尊さを理解するには至っていない。

そこで、死を恐れず、与えられた「生命」を明るく、積極的に生き抜いた人の姿に触れさせ、「生きるとは」という視点で、かけがえのない生命の大切さに気づかせ、よりよく力強く生きぬこうとする気持ちを育てることは大切であると考え。

(2) 児童について

本学級の児童は、命は両親から与えられたもの、そして生きるものすべてに死が訪れることは理解している。また、動植物を身近に感じ、教室で飼育している小動物や、学習園の植物の世話や手入れを好んで行っている。さらに、家庭でも様々なペットを飼い、世話をしている児童も多い。それらの飼育・栽培活動からも生命の尊さや死の重さなどがある程度感じとっている。事前に行ったアンケートの結果でも100%の児童が命は大切であると答えている。しかし、「生きているとは」という問いに対しては、「動くこと」・「考えること」・「学習すること」など漠然とした答えが多い。さらに、身近な人の死に接した経験がある児童が59%とそれほど多くなく、死に対する意識や実感が全体的に低いという実態である。このようなことから、「生」と「死」の重さを理解し、日々生きている喜びを感じとり、よりよく力強く生き抜こうとする心が育っているとは言い難い。

そこで、かけがえのない生命の大切さに気づかせ、よりよく力強く生きぬくことの本質に触れることは本学級の児童にとって意義があると思われる。

(3) 資料について

本資料は重い心臓病にかかり亡くなった少女「佐江子」が、手術の三日前に母親に書いた手紙である。「佐江子」は重い心臓病のために普通の学校生活を送れず、母親がなんとか他の子ども達と同じような、生活を送らせたいと献身的に面倒を見てきた。手紙形式で書かれたこの資料には、母と「佐江子」の思い出が回想されている。

手術を三日後に控えた時の「佐江子」のこの手紙には、母親に対する感謝やいたわりの気持ちとともに、生きることへの希望があふれており、読み手の共感を呼ぶ感動的な資料である。

「佐江子」の死を恐れず、明るく積極的に生きようとする姿は、命のかけがえのなさに気づき、自他の生命の尊さを感じ、よりよく力強く生きていこうとする心情を育てるのに適した資料と考える。

(4) 授業の構想について

本時は、本校の研究の視点である「地域の人材を生かす」を授業に取り入れたものである。主人公の生き方から、生命の尊さについて考え、「よりよく力強く生きぬく」ことの本質を考えることにより、自己の生き方を見つめさせたい。「みつめる」段階では、普段たくさんの「生」と「死」をみつめている、医療に従事する地域の方をゲストティチャーに迎え、生きることの尊さや死の重さ、そして生きることの本質について話してもらうことにより、価値を主体的に自覚し、自分の生き方について考えを深めていけるように促したいと考える。

4 全教育活動における本時の位置づけ

<道徳の時間>

<教科・総合的な学習の時間>

<特別活動・日常活動>

生命尊重

理科「動物のからだのはたらき」【6月】
生物のからだの仕組みを学習する中で、命の尊さや重さを考える。

主題名 「尊い命」 【5月】
3-(2) 生命尊重
資料名 わたしの思い
ねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切に生きていこうとする気持ちを育てる。

理科「植物のからだのはたらき」【6月】
植物のからだのはたらきを学習する中で、命の神秘さ尊さを考える。

主題名 「自然を大切に」 【6月】
3-(1) 自然愛・環境保全
資料名 花かげの花守りたち
ねらい 自然のすばらしさを知り、身のまわりにある自然を大切にしようとする気持ちを育てる。

学習園での栽培活動 【4月～10月】
学習園で作物を栽培することにより、自然の恵みの偉大さに気づき大切にしていこうとする。

本 時

国語「森へ」 【7月】
森の生態系のつながりを読み取り、自然の神秘さ、偉大さを感じ取る。

主題名 「生命のかがやき」 【10月】
3-(2) 生命尊重
資料名 お母さんへの手紙
ねらい 手術を間近に控えながらも、母への感謝の気持ちの念を抱き、明るく生きていこうとする主人公の心情をとらえ、命を大切に、よりよく生きていこうとする気持ちを育てる。

飼育活動 【年間を通して】
学級で生き物を飼育することにより、命の尊さに気づき、大切に育てていこうとする。

社会「人々の願いとまちづくり」 【11月】
住みやすい環境のまちをつくるために、自分たちの願いがどのような方法で具現化されているのかを理解する。

主題名 「大切な自然環境を守ろう」 【11月】
3-(1) 自然愛・環境保全
資料名 ジュゴンとともに生きたい
ねらい 自然や動植物との共存なしには人間は生存できないことを知り、自然環境をよくしていくことの大切さについて自覚を深める。

国語「海の命」 【3月】
与吉じいさんと太一の漁に対する考え方から、「命の尊さ、重さ」について自分の考えを深める。

3-(2) 生命尊重
ねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

<子どもの意識>

・命とは尊く重いものである。命の大切さを感じ、力強く生きていこう。

・自然はすばらしい。守るために自分たちができることから取り組んでいこう。

・命とは何にもかえ難い大切なものだ。自分の命をそして生きているすべてのものの命を大切にしていこう。

・人と自然は密接にかかわり合っている。人と自然の共存していくためにどうしたらよいのだろうか。

5 本時の指導

(1) ねらい 手術を間近に控えながらも、母への感謝の念を抱き、明るく生きていこうとする主人公の心情をとらえ、生命を大切にし、よりよく生きていこうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
<p>気 づ く</p> <p>8分</p>	<p>1 生きていてよかったなと感じた経験について話し合う。</p> <p>○生きていてよかったなと思ったときはどんなときですか。</p> <p>2 資料「お母さんへの手紙」を読み、感想を発表しあい、学習課題を設定する。</p> <p>○感想を発表しましょう。</p> <p>○どの場面のだれの気持ちを考えたいですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊んで楽しかったとき。 ・欲しかったものを買ってもらったとき。 ・「手術がんばろうね。」と言ったところが心に残った。 ・おばあちゃんになったらたっぷりめんどろみるからねのところが心に残った。 ・どんな思いで手紙を書いたのか考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きていてよかったと思った経験を自由に出させ、価値への導入を図るとともに学習意欲を高める。 ・印象に残った場面を発表させ、統合するものとして、学習課題を設定する。
<p>佐江子さんはどんなことを思いながら手紙を書いたのでしょうか。</p>			
<p>深 め る</p>	<p>3 「わたし」の気持ちを中心に考え、話し合う。</p> <p>○どんな思いで、佐江子さんは14才になった今でも、お母さんのあったかい手が大好きと思っているのでしょうか。</p> <p>○今、佐江子さんは「いい夢見なさい。」という言葉のように思っているのでしょうか。</p> <p>○佐江子さんはどんな思いから、「手術がんばってくるからね。」ではなく、「手術がんばろうね。」と言っているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの手を握っていると安心するんだよ。 ・14才にもなって恥ずかしいけれど、これからもそばにいて欲しい。 ・今まで病気のことで私もつらいことがたくさんあったけど、いつもお母さんがいてくれたから乗り越えられた。 ・わたしも母になったら、この言葉で子どもを勇気づけたい。 ・いつまでもくよくよしないで明るく生きなさいということだね。 ・明日はいいことがあると信じて前向きに生きなさいということだね。 ・悪いことばかり考えないで、いいほうに受けとりなさいということだね。 ・お母さんもわたしと同じくらいなのでしょうね。 ・お母さんと気持ちを一つにして手術を乗り越えたい。 ・お母さん、いつでも心はひとつだよ。 ・不安に思っているお母さんを勇気づけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の深い愛情とそれに対する佐江子の深い感謝の思いに触れさせ、母の愛情があったからこそ今までつらいことを乗り越えられてきたと思う佐江子の心情に共感させる。 ・前向きに生きなさいという母の思いをくみ取って、将来自分も子どもに対してそう言いたいという希望を持つ佐江子の心情を捉えさせたい。 ・佐江子の生きることへの意欲と、母親の思いをくみとり賢明にがんばろうとする前向きな心情を捉えさせる。

20分	<p>◎ 佐江子さんはどんな気持ちで「これからもよろしくね」と言っているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は健康な体になれると信じているから大丈夫。お母さんも応援してね。 ・手術はきっと成功するよ。 ・手術がんばるからね。お母さんもがんばってね。 ・大人になったらわたしがお母さんのお世話をするよ。 ・これからもわたしを見守ってね。 ・14年間本当にありがとう。 ・絶対病気をなおして、元気になるからね。 ・これからも精一杯生きていくよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐江子が手紙にたくした思いを考えさせ、価値把握につなげる。
見 つ め る 7分	<p>4 資料で学んだことを受け、生きることについての考えを深める。</p> <p>○ 命を見つめ、命を守る仕事をしている越場さんのお話を聞きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病気になってもめげずに一生懸命生きている人がたくさんいるんだな。 ・命の尊さについて考えさせられた。 ・命を大切に毎日をしっかりと生きていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生と死を見つめながら仕事をしている方の話を聞くことにより、価値を主体的に自覚し、命の大切さだけでなく日々を大切に生きることに関心させたい。
ま と め る 10分	<p>5 まとめをする</p> <p>○ 佐江子さんの思いを考えたり、越場さんのお話を聞いて、「生きる」ことについてどんなことを考えましたか。心のノートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命は何にもかえがたい大切なものだな。 ・命が終るときまで一生懸命生き抜こう。 ・生きていることに感謝し、普段から目標を持って生活していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを受け、生きることの本質を考えることにより、生命の尊さを一般化させたい。 ・心のノートを活用して、本時の学習を通して考えことを書かせ、発表させる。

6 板書計画

7 資料の分析

- (1) ねらい 手術を間近に控えながらも、母への感謝の念を抱き、明るく生きていこうとする主人公の心情をとらえ、命を大切にし、よりよ
 (2) 資料名 お母さんへの手紙 (出典 東京書籍)

主な場目	今までの数々の思い出を回想しながら、つらかったとき握ってもらった母の手のぬくもりを思い出している場面。	入院する前の日の晩、お母さんの「いい夢見なさい。」という、口ぐせの本当の意味を知り、将来、自分の子どもに言ってやりたいと思う場面。	手術を目前にしたとき佐江子は母親の様子から自分がつらいときは母親も同じつらさを味わっていることに気づく。手術と一緒にがんばりたいという気持ちから、母に「手術がんばろうね。」と思う場面。
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> ・重い心臓病で亡くなった佐江子さんが、お母さんに書き残した手紙です。 ・いよいよ手術は三日後。 		
主人公の心の動き	<p style="text-align: center;">感謝 うれしさ 願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「14年間、わたしを育ててくれてありがとう。」 ・つらいことが雪のように、どんどんとけていくみたい。 	<p style="text-align: center;">生命尊重 感謝 希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「変なの。」って、ずっと思っていた。 ・入院する前の日のばん、はっと思ったの。 ・わたしも将来子どもが生まれたら「いい夢見なさい。」と言ってあげたい。 	<p style="text-align: center;">生命尊重 決意 たわり やさしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんも、わたしとおなじつらさを味わっているんだよね。 ・わたしはだいじょうぶだからね。 ・お母さんもがんばってね。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも私を励ましてくれてありがとう。 ・今まで病気のことでもお母さんがたくさんあったけど、いつもお母さんがいてくれたから乗り越えられた。 ・お母さんの手を握っていると安心するんだよ。 ・14才にもなって恥ずかしいけれど、これからもそばにいて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしも母になったら、この言葉で子どもを勇気づけたい。 ・励ましてくれてありがとう。 ・悪いことばかりがふりかかっていると考えないで、いいほうに受けとりなさいということだね。 ・明日はいいことがあると信じて前向きに生きなさいということだね。 ・いつまでもくよくよしないで明るく生きなさいということだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さん、一緒にがんばろう。 ・お母さんと気持ちを一つにして手術を乗り越えたい。 ・不安に思っているお母さんを勇気づけたい。 ・お母さん、いつでも心はひとつだよ。 ・お母さんもわたしと同じくらいつらい。
発問	○どんな思いで、佐江子さんは14才になった今でもお母さんのあったかい手が大好きとと思っているのでしょうか。	○今、佐江子さんは「いい夢見なさい。」という言葉をもどどのように思っているのでしょうか。	○佐江子さんはどんな思いから、「手術がんばってくるからね。」ではなく、「手術がんばろうね。」と言っているのでしょうか。

よく生きていこうとする気持ちを育てる。

手紙の最後に佐江子はもう一度母への感謝の気持ちを語る。14年間の母親の愛情に対する感謝の気持ちとともに、これからの自分の生き方について思いをふくらませている場面。

生命尊重

感謝 決意 希望

- ・今、365×14回分の「ありがとう」を言いたい気分です。
- ・お母さんがおばあちゃんになったらたっぷりめんどろみるからね。
- ・手術がんばろうね。

- ・これからも精一杯生きていくよ。
- ・絶対病気をなおして、元気になるからね。
- ・14年間本当にありがとう。
- ・これからもわたしを見守ってね。
- ・大人になったらわたしがお母さんのお世話をするよ。
- ・手術がんばるからね。お母さんもがんばってね。
- ・手術はきっと成功するよ。

◎佐江子さんは、どんな気持ちで「これからもよろしくね。」と言っているのでしょうか。

